

平成24年度第1回木の文化を具体化する推進委員会 摘録

- ◆ 日時：平成24年10月18日（木） 15：00～17：00
- ◆ 場所：ルビノ京都堀川 「松」
- ◆ 出席者：以下参照

区分	名前（敬称略）	所属	
委員	青合 幹夫	京都府森林組合連合会 代表理事専務	
	乾 康之助	京都木材協同組合 理事長	
	岩井 吉彌	元 京都大学大学院農学研究科 教授	
	丘 眞奈美	京都ジャーナリズム歴史文化研究所 代表	
	神吉 紀世子	京都大学大学院工学研究科 教授	欠席
	中井 恵子	株式会社ケイ建築事務所 代表取締役社長	
	野間 光輪子	日本ぐらし株式会社 代表取締役	
	大北 乙佳	工務店 勤務	
	堀井 誠史	京都府産木材認証制度運営協議会 会長	欠席
	吉川 哲雄	京の山杣人工房上京区モデル工房「木輪舎」 代表	
	吉田 英治	京都市域産材供給協会 会長	
事務局	山本担当部長	京都市農林振興室	
	納谷課長	京都市農林振興室林業振興課	
	河津係長	京都市農林振興室林業振興課	
	井上担当	京都市農林振興室林業振興課	

◆ 要旨

1 挨拶，委員長・副委員長選出

- 挨拶，委員・事務局メンバー，委員会運営予定の確認
- 委員長，副委員長の選出

2 木の文化を具体化する取組の進ちよく状況について

- 事務局から資料に基づいて説明
 - ・ 市内産木材の主な使用状況
 - ・ 京の山杣人工場の活動報告
 - ・ 市内産木材のPR活動
 - ・ 「みやこ杣木」産地視察研修会
 - ・ フォーラム，セミナーでの事例発表報告
 - ・ 地域産材ストック情報システムの進ちよく状況
- 主な質疑応答及び意見
 - ・ PR活動に対する反応はどうだったか。
 - 京の七夕では「みやこ杣木」のパネルを展示し，チラシを配布した。ミニチュアハウスの組み立てワークショップは，特にマンション住まいの子供の関心を集めた。市役所内の建築関係の部署を対象とした製材所等の視察研修会は，参加希望者が想定より多く，木に対する関心が非常に高いことを改めて認識した。
 - ・ 同視察研修会には参加させてもらったが，良かったと思う。設計担当部署だけでなく，木材利用に係る色々な部局から参加者があった。
 - ・ 京都市地球温暖化対策条例において，延床面積2，000㎡以上の建築物に地域産木材の使用が義務付けられたということだが，どの程度の木材が使用されることになるのか。
 - 新築と増築の両方が対象となり，用途により使用義務量は一律ではない。考え方としては，部屋1つに対して使用義務量が算出され，それらを合算し，当該建築物の最低使用義務量が示される。
 - ・ PR活動の結果，「みやこ杣木」の問い合わせがいくつかあったようだが，その問い合わせは，どこにきてどの様に対応したのか。
 - 事業窓口の京都市域産材供給協会へ制度や活用の相談があり，申請を勧めた。
 - ・ 課題があれば1つ1つ解決をしていき，評価された部分はどんどん進めていかなければならない。イベントについても人気のあったものはもっと進めていくべきで将来に繋がるのが重要。京都市域産材供給協会から積極的な対応を心掛ける必要がある。
 - この委員会はあと2年半あるので，委員の意見を取り入れながら，結果をしっかりとらせるよう事務局として動いていく。
 - ・ これまで，どうしたら木が売れるかを10年近く検討してきた。みやこ杣木の供給事業の昨年度実績が19件しかなく，結果が出ていないように思う。小さなことでも

結果を残し、その先を追及していかなければならない。

→ 昨年度の供給事業の計画は20件を予定していた。

- ・ 行政の人事異動はやむを得ないが、木に関しては知識と経験の積み重ねが必要。難しいことと思うが長期にわたって担当できるシステムが必要。
- ・ 市内産木材の供給事業を受けた市民へのインタビューを実施し、木が良いというユーザーの意見収集が必要。木が良いという意見を積み上げることはできないか。
- ・ 利用に結びつけるには、もう1歩、2歩の努力が必要。施策を真剣に考えて欲しい。
- ・ 一方で、山の現状も知る必要がある。これまでは川下の議論をしてきたが、今年は川上について議論をしていくということで、森づくりに関する話を聞いていきたい。

3 京都三山、特に東山における森林づくりについて

➤ 主な質疑応答及び意見

- ・ 京都の山に自生している木をまちの中の庭や道路沿いに植えることができるのなら、積極的に学校に植えてはどうか。木の産地として山の名前を覚えてもらえるし木に親しんでもらえるのではないかと考える。
→ 苗木を作っている業者が京都には少ない。その様な場所があってもいいと思う。
- ・ 何故急にシカが増えたのか。
→ オオカミやキツネ等の天敵がいなくなったことも原因だと思う。
- ・ 雪が少なくなり、越冬できるシカが増えたのも大きいと聞いたことがある。
- ・ シカが増加した理由は狩猟者の高齢化や温暖化で越冬できる鹿が増えたことなど様々な要因があると考えられる。
- ・ 話題提供の中であったパッチディフェンスは有効かもしれない。
- ・ 木の普及活動と一緒に、各委員が、もっと積極的に情報を出していく必要がある。
- ・ 行政内部においても、これまで以上に積極的に木材の利用を推進する必要がある。
- ・ 10年近く毎年3箇所程度の小学校へ出前授業をしているが、京北の小学校でも子供が木を知らない。親が山仕事をしている子供も非常に少ない。山のことをしっかりと教える必要がある。
- ・ 山仕事だけで生活するのは困難。かつては中学校でも間伐を体験させていた。
- ・ 行政がやり方を工夫して、山仕事をもっと魅力的な仕事にするべき。
- ・ いろいろ活動してきたが、これまで以上に行政との連携が重要になる。
- ・ 委員会は、年2回では時間が足りないのかもしれない。何か御意見があれば書面やネット等で意見を提出してもらいたい。

4 その他

- ・ 事務局から視察勉強会の内容について、パッチディフェンスやナラ枯れの視察を提案後、委員の意見を聴取してうえで実施することに決定。